Pick_UP

第17回
唐梅館絵巻

武士たちの群像

一族の命運賭けた一幕

戦国時代、豊臣秀吉の命に背き、大義を貫いた葛西氏・千葉氏の命運を再現した「唐梅館絵巻」は10月8日、東山町の唐梅館で行われた。

葛西氏は鎌倉時代から奥州総奉行を務めた名門。千葉氏はその重臣として一関地方をおよそ400年にわたって治めた。天正18（1590）年、豊臣秀吉から小田原参陣の命を受けたが、千葉氏一族は本拠地の唐梅館に集まり、参陣の拒否を決定。秀吉の奥州征伐で滅亡した。

同イベントは、参陣拒否を決めた軍議の様子や武者行列を再現したもの。今回で17回目を数えた。

総大将、千葉広胤役には、俳優の山本涼介さんを起用。武将や重臣に扮した約300人の出演者らは、東山町長坂商店街からメイン会場の唐梅館総合公園までを戦国時代そのままに雄々しく練り歩いた。

1「エイエイ、オーッ」。唐梅館に集まった約300人の出演者たちは、高らかに「開運の気勢」を上げた／2_当時の軍議行列を忠実に再現。一行は約2キロを練り歩いた／3_一般参加した那須与一さん（83歳・東山町長坂）。事前に申し込めば武士の一人としてイベントに参加できる／4_地元の女性団体が「総祝い千人踊り」で華をそえる／5_子供たちも「ちびっこよさこい」でイベントを盛り上げた

Topic 400年の時を越えて
Beyond time of 400 years

ときは天正18（1590）年4月17日。奥州葛西氏家臣団は、唐梅館に集結した。

「今こそ北方の武将、葛西・千葉一族の意地と力を見せようぞ」。

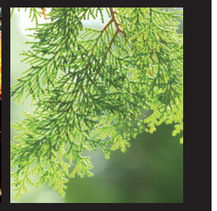
激動の時代にほんろうされながらも、故郷を守ることを選び、忠義を貫いた武士たち。その熱い生きざまは、多くの歴史ファンの心をとらえている。

Topic ねがえ葉、かなえ葉
Hope-leaf and Come true-leaf

豊臣秀吉に背き、安住の地、奥州を守り抜くことを決めた北方武将たちは、ヒノキの葉に祈りを込め、「妙見の火」に投げ入れた。その炎を自分たちに見立て、未来永劫、燃え続けることを願ったといわれている。

妙見の火とは、千年以上前に中国大陸から、京都を経て関東平野に伝えられたとされる神聖な炎。

現在の「ねがえ葉」「かなえ葉」の儀式は、家内安全や無病息災を願うものとなっている。



千葉 佳紘くん
Voice.4

東山小6年

東山町松川
12歳

若武者役として初参加

唐梅館絵巻には何度も遊びに来ています。今年は唐梅館家臣・若武者役として初めて参加しました。たくさんの人が町中を歩く軍議行列がすごいと思いました。

「よーい、よい」と掛け声を出して練り歩く

千葉 洋子さん
Voice.3

松川婦人会
会長

東山町松川
76歳

おにぎりで支える舞台裏

会員40人で860個のおにぎりを握りました。作業は約90分。毎年、食中毒に注意しながら時間と戦っています。依頼される数が少ないと寂しい。多くの人に参加してもらいたいですね。

おにぎりの具は梅。経木（きょうぎ）でくるむ

石崎 達男さん
Voice.2

長坂第1行政区自治会
会長

東山町長坂
70歳

他地区と共に活動したい

2013年から餅まきを行っています。長坂1区と上町、両自治会の子供たちやゲイビマンが山車から沿道に餅をまきました。集まる人たちの笑顔を見ると「来年も続けよう」と思います。

舟の山車は自治会員の手作り

小田沢哲也さん
Voice.1

一関商工会議所
青年部東山支部長

東山町長坂
43歳

前夜祭でイベントをPR

唐梅館絵巻をＰＲするため、地元の青年たちを中心に、前夜祭「唐梅Oh!天気祭り」を企画しています。年々参加者が増え、イベントを盛り上げようという機運が高まっています。

今年はコスプレを取り入れた

支援者たちの声
Supporter's Voice

東山地域の一大イベント「唐梅館絵巻」。壮大なスケールで繰り広げられる歴史絵巻を支えているのは、地域住民の力にほかならない。舞台裏では、積み重ねた経験と、古里を愛する心が、熱いエネルギーとなって渦巻いている。

装束の着付けも住民のボランティア